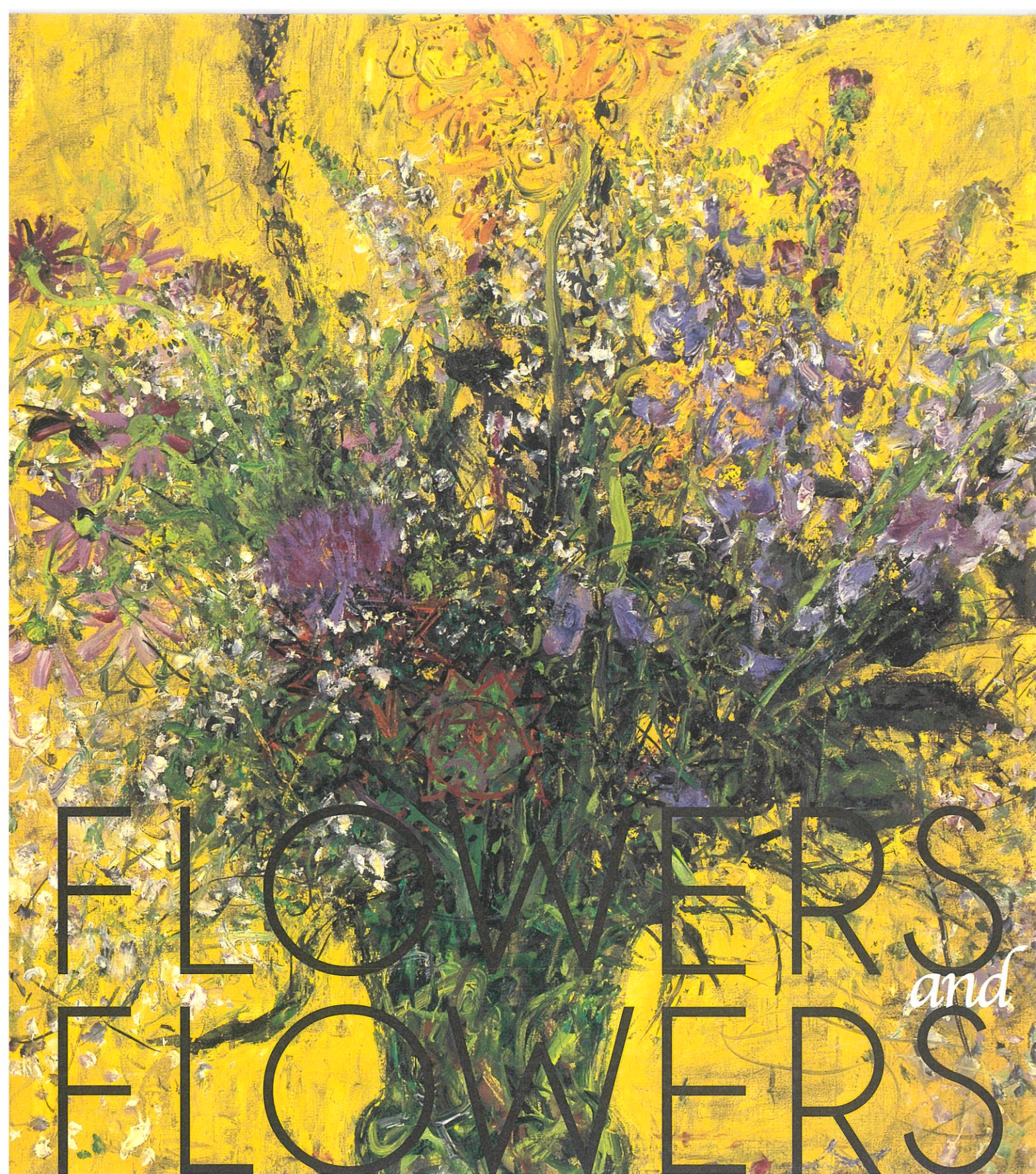




FLOWERS and FLOWERS

宮本三郎の描く花・華

2023.4.1sat-9.10sun

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-38-13
TEL.03-5483-3836
<http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>

開館時間 | 10:00 ~ 18:00(最終入館は17:30まで) 休館日 | 毎週月曜日(ただし、祝・休日と重なった場合は開館、翌平日休館)、7月17日(月・祝)は開館、7月18日(火)は休館
観覧料 | 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上 / 中小生100円(80円) *障害者の方は100円(80円)、ただし小・中・高・大学生の障害者は無料。介助者(当該障害者1名につき1名)は無料。証明書をご提示のうえ、お申し出ください。*()内は20名以上の団体料金 *世田谷区内在住・在学の小・中学生は土、日、祝・休日、夏休み期間は無料

「仕事に疲れると花屋の店を一巡して回る。私の近くには花屋が七、八軒もある。花は季節を早く知らせてくれる。」

——宮本三郎「花」『繪』(通巻第5号・1964年7月号)より



洋画家・宮本三郎(1905-1974)が生涯を通じて愛したモチーフのひとつ、花。奥沢の自宅兼アトリエで送った生活と制作の傍らには、常に花がありました。初期の作品には、人物画や静物画を構成する要素として、花瓶に生けられた花が穏やかなタッチで丁寧に描かれていましたが、次第に花そのものが主役となる機会が増えると、表面的な美しさや形態の再現にとどまらず、よりその実体や本質を追求するかのような試みが展開されます。やがて1960年代後半にもなると、宮本の花は、鮮やかな色彩と力強い

タッチによって画面を覆いつくし、花自らがひとつの生命体であることを主張し始めるのでした。それは、動かないもの、命のないものという意味での「静物=Still Life」を超え、自律する存在として鮮烈な輝きを放っています。またこの変化は、宮本が描く女性像の変遷——他者から視線を注がれる対象としての女性から、個としての主張と生を漲らせた存在としての女性へ——にも重なります。宮本三郎が「花」を描いた作品を中心に、時代ごとの女性像を織り交ぜつつご紹介します。

上段 左から《(花)》1967-71年頃、《Fleure(ブルーバック)》1967-71年、《芥子と立藤》1967年 下段 左から《バレリーナ》1962年、《(静物/壺 花 グラス)》1961年頃、《(婦人像)》1969年頃、《花と女》1932年、《おどりこ》1962-64年頃 表面《黄色バックの花》1961年頃(部分) ※()は作品名不詳のため仮題

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

【交通案内】 電車 ●東急東横線・大井町線「自由が丘」駅より徒歩7分
●東急大井町線「九品仏」駅より徒歩8分
●東急目黒線「奥沢」駅より徒歩8分

バス ●東急バス(渋11)田園調布駅～渋谷駅「奥沢六丁目」下車徒歩1分
●東急バス(園01)田園調布駅～千歳船橋駅「浄水場前」下車徒歩10分



撮影:上野剛宏

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13

TEL.03-5483-3836 <http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>



世田谷美術館分館

清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066
東京都世田谷区成城2-22-17
TEL.03-3416-1202
<http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>

清川泰次 絵画とテキスタイルデザイン
2023年4月1日(土)～9月10日(日)



©宮本和義

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016
東京都世田谷区弦巻2-5-1
TEL.03-5450-9581
<http://www.mukaijunkichi-annex.jp/>

開館30周年記念 向井潤吉からの贈りもの 自選寄贈作品一挙公開!
2023年4月1日(土)～9月10日(日)



撮影:上野剛宏

世田谷美術館

SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075
東京都世田谷区砧公園1-2
TEL.03-3415-6011(代表)
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

【展覧会のご案内】
TEL.050-5541-8600(ハローダイヤル)

同時
開催
展

企画展

ミュージアム
コレクション

世田谷美術館コレクション選
わたしたちは生きている! セタビの森の動物たち
麻生三郎展 三軒茶屋の頃、そしてベン・シャーン
シャガール 版にのした光の詩 — 神奈川県立近代美術館コレクションから
土方久功と柚木沙弥郎 — 熱き体験と創作の愉しみ

I 山口勝弘と北代省三展 — イカロスの夢

II 雑誌にみるカットの世界——『世界』(岩波書店)と『暮しの手帖』(暮しの手帖社)

2月18日(土)～4月9日(日)

4月22日(土)～6月18日(日)

7月1日(土)～8月27日(日)

9月9日(土)～11月5日(日)

4月22日(土)～7月23日(日)

8月5日(土)～11月19日(日)

※ご入館に際しては感染症予防のため、手指消毒、検温にご協力ください。館内で十分な距離を保てない場合がありますので、マスクの着用を推奨しております。

※展覧会の会期および内容が、急遽変更や中止になる場合もございます。

※会期中の最新情報は美術館ウェブサイト等でお知らせします。